様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ５ 月 ２０ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2011～2015
課題番号：２３３２０１１４

研究課題名（和文）大学間，高等学校－大学間ロシア語教育ネットワークの確立

研究課題名（英文）Establishing a Network among Universities and between High Schools and Universities

研究代表者
林田　理恵（HAYASHIDA, Rie）

大阪大学・言語文化研究科（研究院）・教授

研究者番号：７０１８５６５１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　14,500,000円

研究成果の概要（和文）：　国内ロシア語教育各機関における教育カリキュラムの質的評価を行い，問題点を明確化，さらに各機関における語学能力到達度の相互比較を実施した．また全国高校･高専･大学ロシア語学習者1114名を対象にアンケート「ロシア語とロシア語学習に対する意識調査」を実施，量的･質的分析に基づき学習者の動機づけと学習環境との相関性観察を行った．国内外でその結果を発表，ロシア語学習者の傾向を明らかにし，ロシア語教育のあるべき方向性について明確な指針を提示した．
さらに，カリキュラム･教材開発，指導方法，評価システム，就職関連情報等について，各機関教員の共同利用サイト『ロシア語教育支援･就職情報』を構築し公開した．

研究成果の概要（英文）：　In this project, we qualitatively evaluated the educational curriculums of institutions in Japan that offer Russian language programs, clarified various issues, and compared the institutions in terms of the level of the students' language skill development. We also conducted a questionnaire survey of 1,114 students who were learning Russian at high schools and universities. Quantitative and qualitative analyses were conducted to reveal the correlation between learners' motivation and learning environment. We presented the survey result in Japan and overseas, explained the trends found among Russian language learners, and proposed the ideal direction of Russian language education.
In addition, we developed a website (Information for Russian Language Learning and on Employment Opportunities) that provides teaching staff of various institutions with information on curriculum teaching material development, teaching methods, evaluation systems, and employment opportunities.

研究分野：人文学

キーワード：ロシア語教育　教育ネットワーク　高大連携　ロシア語教育支援サイト　ロシア語就職情報サイト

１．研究開始当初の背景

(1) 日本とロシア連邦･NIS 諸国との経済関係が急速に緊密化，国内でもビジネス･労働･観光目的で来日するロシア連邦･NIS 諸国の人々の数は増加の一途をたどり，官公庁や企業では外交･通商関係を担う高度なロシア語運用能力を持つ優秀な人材への需要が高まった．また，ロシア語を母語とする在住「外国人」を多数抱える自治体でも，これら住民に対する生活･医療面や子育て･教育面でのケア，労働･人権問題などへの対応が急務となっており，「ことばの障壁」をクリアできる人材育成が求められるようになった．

(2) 一方，国内には複数のロシア語専門教育機関と選択外国語としてロシア語を履修できる多数の大学･高等学校が存在するが，各教育機関間でカリキュラムや到達目標等の情報交換もなく，指導法開発や授業運営での経験交流，教材開発等での協力関係も存在せず，ロシア語関係の人材育成という今日の高まる社会的要請に応え得るには程遠い体制にあった．さらに，高校･大学間での連携不備により，高校でのロシア語既習者に対する大学での教育体制は整備されておらず，また各都道府県教委と大学機関とのネットワークの不在により，高等学校でのロシア語教員の人材確保が難しくなっている等の深刻な問題も生じていた．

(3) こうした現状に対し，2008 年開催の『ロシア語教育フォーラムー地域の国際化とロシア語教育の必要性－』で「今日の情勢下で必要とされるロシア語関係の人材育成に向け，教育機関･行政･企業の相互連携と人的ネットワーク形成が不可欠である」との認識が示され，またフォーラム開催に先立ち，研究代表者が中心となり日本海沿岸，北海道地域を中心にロシア語教育機関･行政･企業のヒアリング調査を実施，実態調査と現状の問題点についてデータ収集が行われていた．

(4) ロシア語教育専門機関である大阪大学外国語学部ロシア語専攻では，2008-2010 年，科学研究費補助金助成により「国際基準」に準拠したロシア語総合試験開発を行い，到達度評価システムに基づくカリキュラム策定，成績評価等をすでに稼働させていた．ロシア語教育における国内初のスタンダードモデルとなったこの成果は，本研究課題の基盤整備となる，各機関での教育カリキュラムの到達度評価に基づいた質的評価，機関相互のレベル比較という作業において重要な指針として継承発展できるものであった．

２．研究の目的

本研究は，一貫教育システムを展望した大学間，高等学校－大学間ロシア語教育ネットワーク確立 という目的達成に向け，

(1) 国内各ロシア語教育機関における現行教育体制･カリキュラムについて情報収集，大阪大学ですでに開発された国際基準準拠，客観的評価システムに基づく総合試験等を参考に語学能力到達度調査を行い，それらの結果データの分析もふまえて，各機関における教育カリキュラムの特色･独自性の質的評価と問題点の明確化，語学能力到達度の相互比較を行い，

(2) (1)の分析結果を踏まえ，カリキュラム策定や教材，指導方法，評価システム等について，各機関間で必要な情報のスムーズな流れを作り，それら項目についての共同研究･開発が可能な連携･協力体制を確立し，

(3) 中等･高等一貫のロシア語教育体制を視野に入れ，各教育主体の特色･独自性を活かしつつ，専攻と非専攻，高校と大学等，到達目標や教育システムごとに，スタンダードモデルとしての語学教育･学習プログラムを策定すべく，その基盤整備を行い，

(4) 行政･企業･教育委員会に対するアンケート･ヒアリング調査を行い，求められているロシア語関係人材の具体像を明らかにし，これらの組織と教育機関との間での常時アクセス可能な人材連携ネットワーク確立に向け，その基盤整備を行うことを目的とする．

(5) 本研究の成果として予定される大学間，高等学校－大学間ロシア語教育ネットワークの確立は，① カリキュラム策定，教材，指導方法等に関する最新の情報の共有と共同研究･開発を可能とし，各教育機関での「国際性」「透明性」をもち，相互レベル比較が可能な教育プログラム作成へと道を開く．そのことで ② 中等･高等教育，専攻･非専攻教育相互間で，到達度レベルに基づく横断的な教育プログラムの連携･分業が可能となり，将来的に，一貫教育システムを見すえた国内ロシア語教育体制の枠組み作りに展望を開く．また，③ 各教育機関の教育内容の特色，ロシア語言語能力レベルの到達目標が明示化され，行政･企業･教育委員会等との間で常時アクセス可能な人材連携ネットワークを確立することができれば，教育機関の出口とロシア語関係人材を求める組織の入口をバランスよくつなぎ，人材の各職業分野への適正配置を促すことが可能となる．さらには ④ 中等教育機関のロシア語教員養成とその採用についても，組織的な道筋を作る手立てとなる．

３．研究の方法

(1) 先行研究の整理と情報共有－外国語教育スタンダード（過去の調査･研究によって蓄積した CEFR (Common European Framework of Reference for Languages), ALTE (Association of Language Testers in Europe)，アメリカの National Standars や ACTFL=アメリカ外国語教育協議会をはじめとする国内外の外国語教育スタンダードに関する情報），到達度評価制度と能力検定試験（ロシア連邦教育科学省主催ロシア語能力検定試験 (Test of Russian as a Foreign Language = TORFL)，さらには大阪大学ロシア語専攻が開発した独自の到達度目標に基づくロシア語総合試験等），カリキュラム策定等に関する情報･先行研究の整理と情報共有を実施．

(2) 各教育機関のロシア語教育システム･カリキュラムにおける問題点の整理と明確化ーロシア語教育機関における教育システム･カリキュラムに関する詳細情報を収集しデータ入力･まとめを行い，それらの質的評価を踏まえ，それぞれの教育主体がめざす教育目標を実現し，特色，独自性を最大限活かすためにどのような改善が必要であるか，すでに検討された分析枠組みを使い，現行システムにおける問題点の分析，整理･明確化をそれぞれの教育機関で実施.
(3) 語学能力到達度調査テスト実施，調査結果のデータ化と比較分析ーカリキュラム･学習期間とロシア語能力到達度との相関性調査を目的として，教育機関の実情に合った調査用テストを作成，実施し，各機関で調査結果をデータ化．それらについて各機関の分析結果をもとに，組織横断的な比較分析を実施.比較分析項目は次の通り.
・学習期間と能力到達度との相関性
・カリキュラムと言語知識･技能領域（文法･語彙力，読解力，聴解力，作文力，口頭発表力）ごとの到達度との相関性
・教育システムの特色と能力到達度の相関性
(4) 全国大学･高専･高校機関でロシア語を第2外国語として学ぶ学習者及び担当教員に対する大規模アンケート調査を実施．動機づけ理論である自己決定理論，期待･価値理論に基づく質問，及び基本的心理的欲求の充足度，自律学習能力を測る質問への回答について，統計手法を用いた量的分析・質的分析により，学習者の動機づけと学習環境との関係を明らかにし，シラバス，教材を含めた教育･学習環境改善への方向性を確立する.
(5) 教育理論の学問的成果紹介やカリキュラム･教材開発スキル，授業活動の展開等を示した指導方法等を掲載した，常時アクセス可能な全国ロシア語教育機関の共同利用サイトを構築し，教員間のネットワークをより緊密で有機的なものに組織化する．当サイトにはロシア関連就職情報提供のコンテンツも掲載することで，教育機関の出口とロシア語関係人材を求める組織の入口をバランスよくつなぎ，人材の各職業分野への適正配置を促すことを可能にする.
(6) 1～5に挙げた項目について，専門家を招聘した研修会，研究報告・意見交換のための研究会，研究成果発表と討論のためのシンポジウムを開催し，活動内容・成果をまとめた研究報告書を上梓する.

４．研究成果
(1) ロシア語能力検定試験（東京ロシア語学院主催），ロシア語検定試験（ロシア教育科学省主催）等，各種検定試験の試行に基づき，カリキュラム･学習期間とロシア語能力到達度との相関性調査を実施，国内ロシア語教育機関における教育カリキュラムの到達度評価に基づく質的評価，問題点の明確化，語学能力到達度の相互比較･検討をを行った.
(2) 6 言語の研究者による科研プロジェクト「新しい言語教育観に基づいた複数の外国語教育で使用できる共通言語教育枠の総合研究」（基盤研究 (A)，課題番号：23242039）との共同事業として，2012-2013 年度に全国の高校･高専･大学のロシア語学習者（第2外国語）1114名へのアンケート「ロシア語とロシア語学習に対する意識調査」を実施.
① 2013 年度に質問 1（自己決定理論に基づく動機づけ分析），質問 2（期待価値理論に基づく動機づけ分析）について全体的な統計分析と合わせ，a) 学部系統別，b) 学年別分析を実施．また質問 3（選択理由の自由記述回答）についてもキーワードのカテゴリー化をベースとした量的･質的分析を実施．学習者の動機づけと学生の専門領域，学年，履修規定等との相関性について考察をまとめた.
② 2014 年度には 2013 年度に行った第 1 次，第 2 次分析を踏まえ，質問 4,5 の回答結果について 1) 基本的心理的欲求と自律学習能力との関係, 2) 基本的心理的欲求と学習環境との関係, 3) 自律学習能力と学習環境との関係等に関して，さらなる詳細な分析を行い，各機関・教育カリキュラムの質的評価，問題点の明確化を行った.
(3) 上記の分析結果について, 2013 年 11 月，日本ロシア文学会第 63 回大会（於東京大学）にて「＜コロキウムー報告と討論＞全国 6 言語アンケート調査結果（中間報告）とロシア語学習者の傾向」，2014 年 11 月，本ロシア文学会第 64 回大会（於山形大学）にて「＜コロキウムー報告と討論＞全国 6 言語アンケート調査結果（最終報告）とロシア語教育の方向性」を開催．アンケート分析結果を踏まえ，学習環境と学習者の基本的心理的欲求との関係を焦点に意見交換し，語学教育･学習プログラムのスタンダードモデルのあるべき姿の展望，策定に向けての具体的道筋について議論を深めた. また, 第 13 回国際会議「世界文化の中におけるロシア語とロシア文学」（国際ロシア語･ロシア文学教師協会主催，於：スペイン）にて，アンケート「ロシア語とロシア語学習に対する意識調査」全項目に関する分析を総括発表（9 月）．日本のロシア語学習者の傾向を明らかにし，各国ロシア語教育者と議論，意見交換を行った.
(4) (1), (2) の共同作業，分析結果により，各高校･高専･大学が抱える問題点を相互共有することが可能になり，カリキュラム策定や教材，指導法，評価システム等について，各機関の間でそれぞれが必要とする情報のスムーズな流れを作り出した.
(5) 教育理論の学問的成果紹介やカリキュラム･教材開発スキル，具体的な授業活動の展開等を示した指導方法，さらにはロシア関連就職情報提供をその内容とする各機関の共同利用サイト「ロシア語教育支援･就職情報 http://kyoiku-ru.org/」構築を完成，2015 年 3 月に公開した.
(6) 以下の各種セミナー，研修会を開催した.
① 到達度評価，カリキュラム策定等に関す

る英語教育の専門家，言語テスト客観評価法の専門家を招き，国内ロシア語教員を対象としたセミナーを 2011 年 8 月に開催(於富山県).
② 2011 年 10 月（於慶應大学），シンポジウム「ロシア語発　外国語教育連携の時代へ－生涯教育から外国語教育を考える－」を開催. 言語共通参照枠，自律学習，生涯教育等を専門にするフランス語，ドイツ語，中国語，ロシア語の研究者をパネラーとして招聘し，中等･高等一貫の語学教育体制の確立に向け，到達目標や教育システムごとのスタンダードモデルとしての語学教育･学習プログラムをいかに策定していくか，現状の問題点と今後の方策について議論を行った.
③ 2012 年 12 月（於東京外国語大学)，「各教育機関におけるロシア語教育目標とカリキュラム立案に向けての調査結果」と題する活動報告会を開催．各研究分担者，研究協力者が独自にそれぞれの機関でのアンケート回答データを分析し，それに基づいたより具体的なカリキュラム立案，教育目標策定への方向性を打ち出した.
④ カリキュラム策定，教材，指導方法の共同研究･開発に向け, 2013 年 9 月(於岩手県)，語学教育の最新の知見を持つ専門家を講師に招いて研修会を開催.
⑤ 2014 年 9 月（於新潟県立大学），カリキュラム策定，教材，指導方法の共同研究・開発に向け，語学教育の最新の知見を持つ専門家を講師に招いて研修会「隣語を通じて「つながる」言語教育 ―中国語、韓国語、ロシア語の取り組み―」を開催.
⑥ 2015 年 9 月（於大阪大学），セミナー「外国語教育における授業デザインワークショップ：ユニット案を開発する（実践編）」を開催．国際文化フォーラム主催「『外国語学習のめやす』マスター研修」参加者の報告を受け，カリキュラム開発の流れ等についてグループワークによる研修会を実施.
⑦ 2015 年 12 月（於大阪大学），教育ネットワークがもたらした成果，アンケート調査分析結果によって明らかになった，全国ロシア語教育機関における教育体制･カリキュラムの現状と問題点，展望，ロシア語教育支援・就職情報サイト開設に至る経過報告とその成果等，5 年間の科研事業の全成果を発表するシンポジウムを開催.
(7) ① 各機関の語学能力到達度評価に関する分析結果や 6 言語アンケート調査分析結果，また教育システム改善に向けた取組等の結果をまとめた研究成果報告書を 2011 年度，2012 年度に作成.
② 国際文化フォーラム，科研プロジェクト「高等学校のロシア語教員に関する縦断的研究：教師養成のための支援体制の確立」（研究代表者：横井幸子，基盤研究(C)）との共同研究成果として『外国語学習のめやす―ロシア語教育用―』を共同発行.
③ 全期間にわたる科研事業の成果をまとめ，研究成果報告書「大学間，高等学校－大学間ロシア語教育ネットワークの確立」を 2016 年 3 月に上梓.

５．主な発表論文等
〔雑誌論文〕（計６１件）
①佐山 豪太，ロシア語学習者の動機づけの構造，ロシア語ロシア文学研究，査読有，47 号，2015，pp. 163-180 http://yaar.jpn.org/robun/RLL_No47
②佐山 豪太, 宮本 友介, 横井 幸子, 林田 理惠，全国 6 言語アンケート調査結果（最終報告）とロシア語教育の方向性，ロシア語ロシア文学研究，査読有，47 号，2015，pp. 382-388，http://yaar.jpn.org/robun/RLL_No47
③堤 正典，外国語教育とレアリア，ロシア語学と言語教育，査読有，5 巻，2015，pp. 5-10，http://klibredb.lib.kanagawa-u.ac.jp/dspace/handle/10487/12779
④山本 有希，宮﨑 衣澄，富山高等専門学校射水キャンパスにおけるロシア語教育の現状と課題，複言語・多言語教育研究，査読有，2 号，2015，pp. 110-124
⑤林田 理惠，ロシア語教育実情調査－将来的展望と中等・高等教育機関連携の可能性－，複言語・多言語教育研究，査読有，2 号，2014，pp. 60-71
⑥金子 百合子，あなたはなぜロシア語を勉強しているのですか－全国 6 言語アンケート調査結果から届くロシア語学習者の声－, ロシア語教育研究, 査読有, 5 号, 2014, pp. 21-41，http://rokyoken.web.fc2.com/
⑦林田 理惠，金子 百合子，全国 6 言語アンケート調査結果（第 2 回中間報告）とロシア語教育の方向性，新しい言語教育観に基づいた複数の外国語教育で使用できる共通言語教育枠の総合研究，査読無，1 号，2014，pp. 53-63
⑧林田 理惠，ロシア語学習者の動機づけ，新しい言語教育観に基づいた複数の外国語教育で使用できる共通言語教育枠の総合研究，査読無，1 号，2014，pp. 47-52
⑨宮本 友介，横井 幸子，林田 理惠，日本のロシア語学習者の動機づけについて－全国 6 言語アンケート調査結果から－，ロシア語教育研究，査読有，5 号，2014，pp. 1-11，http://rokyoken.web.fc2.com/
⑩宮本 友介，横井 幸子，林田 理惠，日本のロシア語学習者の動機づけについて－期待価値理論に基づく考察－，ロシア語教育研究，査読有，5 号，2014，pp. 13-20 http://rokyoken.web.fc2.com/
⑪横井 幸子，林田 理惠，内容を重視した外国語教育のカリキュラム開発と指導について－第 2 外国語としてのロシア語の場合，ロシア語教育研究，査読有，4 号，2013，pp. 57-73，http://rokyoken.web.fc2.com/
⑫三浦 由香利，動詞変化提示ツールを用いた文法学習と運用能力養成活動との連携－ロシア語初級学習者を対象とした実践例から－，ロシア語教育研究，査読有，3 号，2012，pp. 25-43

http://rokyoken.web.fc2.com/

⑬林田 理惠，到達度評価制度を支えるロシア語スピーキング，ライティング評価法について，ロシア語教育研究，査読有，2 号，2011，pp. 1-24，http://rokyoken.web.fc2.com/

〔学会発表〕（計５７件）

①横井 幸子，日本の高校におけるロシア語教育政策過程：教師の学びに立ち会う，外国語教育シンポジウム，日本外国語教育推進機構(JACTFL)，2016 年 3 月 13 日，上智大学（東京都千代田区）

②林田 理惠，高大連携から接続へ―科研プロジェクト：総括と展望，ロシア語教育研究集会，2015 年 12 月 6 日，大阪大学（大阪府豊中市）

③熊野谷 葉子，ロシア語フェスター語学教育における発表と交流の機会創出の効果，青山学院大学附属外国語ラボラトリー主催公開セミナー，2015 年 9 月 26 日，青山学院大学（東京都渋谷区）

④金子 百合子，なぜあなたはロシア語を勉強しているのですか，第 13 回国際会議「世界文化の中におけるロシア語とロシア文学」，2015 年 9 月 17 日，（スペイン･グラナダ）

⑤佐山 豪太，О мотивации учащихся, изучающих русский язык в японских вузах: анализ с помощью теории самоде терминации，第 13 回国際会議「世界文化の中におけるロシア語とロシア文学」，2015 年 9 月 16 日，（スペイン･グラナダ）

⑥横井 幸子，外国語教育における授業デザインワークショップ：ユニット案を開発する，国際文化フォーラム主催日露教師合同ワークショップ，2015 年 8 月 9 日～10 日，生命の森リゾート（千葉県長生郡）

⑦Horii, S.（横井 幸子），Russian language teachers as policy makers: Recreating foreign language education policy in Japan. , International Council For Central and East European Studies (ICCEES) IX World Congress in Makuhari，2015 年 8 月 8 日，神田外国語大学（千葉県千葉市）

⑧横井 幸子，日本の高校におけるロシア語教育について：現状と今後の展望，日本ロシア語教育研究会 西日本例会，2015 年 7 月 25 日，大阪市立大学（大阪府大阪市）

⑨Horii, S.（横井 幸子）Recreating Russian as a foreign language education policy at two high schools in Japan: Teacher agency and professional development in language education policy. Ninth International Conference on Language Teacher Education, 2015 年 5 月 15 日，Minneapolis, MN（アメリカ合衆国）

⑩佐山 豪太，学習環境とロシア語学習者の内発的動機づけの関係性，言語教育エキスポ 2015，2015 年 3 月 15 日，早稲田大学（東京都新宿区）

⑪林田 理惠，佐山 豪太，宮本 友介，横井 幸子，＜コロキウム―報告と討論―＞全国６言語アンケート調査結果－最終報告－とロシア語教育の方向性，日本ロシア文学会第 64 回全国大会，2014 年 11 月 2 日，山形大学（山形県山形市）

⑫林田 理惠・金子 百合子，全国 6 言語アンケート調査結果（第 2 回中間報告）とロシア語教育の方向性，言語教育エキスポ 2014，2014 年 3 月 9 日，早稲田大学（東京都新宿区）

⑬林田 理惠，ロシア語教育実情調査－将来的展望と中等･高等教育機関連携の可能性，JACTFL シンポジウム第 2 回外国語教育の未来を拓く，2014 年 3 月 1 日，上智大学（東京都千代田区）

⑭横井 幸子，内容重視の言語教育(CBI)の上級日本語教育への文脈化について，大阪大学専門日本語教育研究協議会，2014 年 2 月 17 日，大阪大学（大阪府豊中市）

⑮林田 理惠，科研プロジェクト報告：全国 6 言語アンケート調査結果（中間報告）とロシア語学習者の傾向_学習者の動機づけ量的分析と学部系統別分析，2013 年度ロシア語教育研究集会，2013 年 12 月 1 日，大阪大学（大阪府豊中市）

⑯金子 百合子，科研プロジェクト報告：全国 6 言語アンケート調査結果（中間報告）とロシア語学習者の傾向_質問 3 についての質的分析，2013 年度ロシア語教育研究集会，2013 年 12 月 1 日，大阪大学（大阪府豊中市）

⑰佐山豪太，ロシア語に特化した語彙学習の方向性，2013 年度ロシア語教育研究集会，2013 年 12 月 1 日，大阪大学（大阪府豊中市）

⑱林田 理惠，柳町 裕子，山本 有希，金子 百合子，全国 6 言語アンケート調査結果（中間報告）とロシア語教育の方向性，日本ロシア文学会第 63 回大会，2013 年 11 月 2 日，東京大学（東京都文京区）

⑲宮崎 衣澄，山本 有希，Летние курсы русского языка для студентов Государственного технологического колледжа Тояма，ロシア語・ロシア文学教員アジア太平洋学会，2013年10月9日～11日，ロシア共和国ウラジオストク国立海洋大学（ロシア･ウラジオストク）

⑳横井 幸子，内容重視型の言語教育：チャレンジ編，日本ロシア語教育研究会サマーセミナー，2013 年 09 月 23 日，岩手県つなぎ温泉（岩手県盛岡市）

㉑林田 理惠，6 言語アンケート調査結果－ロシア語学習者の学習動機づけ（ペレストロイカ - BRICS - 習得困難言語イメージ），語学教育エキスポ 2013，2013 年 3 月 17 日，早稲田大学（東京都新宿区）

㉒林田 理惠，横井 幸子，内容を重視した外国語教育のカリキュラム開発と指導について：第二外国語としてのロシア語教育の場合，語学教育エキスポ 2013，2013 年 3 月 17 日，早稲田大学（東京都新宿区）

㉓林田 理惠，黒岩 幸子他 5 名，TRKI とロシア語能力検定とを用いた各教育機関の現状把握および両試験の比較，ロシア語教

育研究集会 2012，2012 年 12 月 2 日，大阪大学（大阪府豊中市）
㉔横井 幸子，Being と Becoming の間で：学習者の視点に立ったCBIの応用法について，ロシア語教育研究集会 2012，2012 年 12 月 2 日，大阪大学（大阪府豊中市）
㉕熊野谷 葉子，柳町 裕子他4名，2011年度日本ロシア文学会総会プレシンポジウム「ロシア語発　外国語教育連携の時代へ－生涯教育から外国語教育を考える－ロシア語現場報告」，2011年10月7日，慶應義塾大学（神奈川県横浜市）
㉖林田 理惠，CEFR基準ロシア語ライティング評価法，日本ロシア語教育研究会主催「サマーセミナー2011」「ことば力・つける・はかる」，2011年8月18日，立山山麓温泉「森の雫」（富山県富山市）

〔図書〕（計８件）
①林田 理惠監修，大阪大学言語文化研究科，「大学間・高等学校－大学間ロシア語教育ネットワークの確立」研究成果最終報告書，2016，271
②黒岩 幸子，朝日出版社，日本発多言語国際情報発信の現状と課題－ヒューマンリソースとグローバルコミュニケーションのゆくえ，2016，381(55-72)
③林田 理惠，横井 幸子監修，国際文化フォーラム，外国語学習のめやす－ロシア語教育用，2016，213
④Horii, S.（横井 幸子），Routledge, Language, Ideology and Education: The Politics of Textbooks in Language Education，2015，240(145-162)
⑤Horii, S.（横井 幸子），New York: Routledge, Second Language Acquisition and Language Teacher.，2014，484pp. (313-324)
⑥林田 理惠監修，金子 百合子，黒岩 幸子他 9 名，大阪大学言語文化研究科，「大学間・高等学校－大学間ロシア語教育ネットワークの確立」2012 年度研究成果報告書，2013，98
⑦林田 理惠監修，金子 百合子，黒岩 幸子他 13 名，大阪大学言語文化研究科，「大学間・高等学校－大学間ロシア語教育ネットワークの確立」2011 年度研究成果報告書，2012，81

〔その他〕
ロシア語教育支援･就職情報サイト
http://kyoiku-ru.org/

６．研究組織
(1)研究代表者
林田　理惠（HAYASHIDA, Rie）
大阪大学･大学院言語文化研究科･教授
研究者番号：７０１８５６５１

(2)研究分担者
横井　幸子（YOKOI, Sachiko）
大阪大学･大学院言語文化研究科･講師
研究者番号：７０６３５１１９
(平成 24 年 9 月 1 日より分担者として参画)
黒岩　幸子（KUROIWA, Yukiko）
岩手県立大学･高等教育推進センター･教授
研究者番号：８０３０５３１７

宮崎　衣澄（MIYAZAKI, Izumi）
富山高等専門学校･国際ビジネス学科･准教授
研究者番号：７０３６９９６６

金子　百合子（KANEKO, Yuriko）
神戸市外国語大学･外国語学部･准教授
研究者番号：８０５２７１３５

山本　有希（YAMAMOTO, Yuki）
富山高等専門学校･一般教養科･准教授
研究者番号：１０３００５６８

柳町　裕子（YANAGIMACHI, Yuko）
新潟県立大学･国際地域学部･教授
研究者番号：３０４２５３６８

熊野谷　葉子（KUMANOYA, Yoko）
慶應義塾大学･法学部･准教授
研究者番号：７０５８１７８４

堤　正典（TSUTSUMI, Masanori）
神奈川大学･外国語学部･教授
研究者番号：８０２８１４５０

小林　潔（KOBAYASHI, Kiyoshi）
神奈川大学･外国語学部･非常勤講師
研究者番号：２０３５０３７４
(平成 24 年 8 月 31 日まで分担者として参画)

(3)研究協力者
小田桐　奈美（ODAGIRI, Nami）
関西大学･外国語学部･助教

角谷　昭美（KAKUTANI, Akemi）
富山県立志貴野高等学校･教諭

加藤　純子（KATO, Junko）
関西大学･非常勤講師

北岡　千夏（KITAOKA, Chinatsu）
関西大学･非常勤講師

佐山　豪太（SAYAMA, Gota）
東京外国語大学大学院博士後期課程

竹内　敦子（TAKEUCHI, Atsuko）
東京都狛江市立狛江第二中学校･教諭
（申請時　関東国際高等学校）

ボンダレンコ･オクサーナ
（BONDARENKO, Oxana）
富山県立伏木高等学校･非常勤講師

三浦　由香利（MIURA, Yukari）
神戸大学･非常勤講師

宮本　友介（MIYAMOTO, Yusuke）
大阪大学･大学院人間科学研究科･助教

依田　幸子（YODA, Sachiko）
北海道札幌西陵高等学校･教諭